

2026 年 06 月 16 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【日銀は政策金利引き上げ】

先週の 6 月 11 日（木）の E C B 理事会では、マーケットの事前予想通りに、0.25%の政策金利引き上げが発表された。

本日（6 月 16 日）の日銀金融政策決定会合では、同様に、マーケットの事前予想通りに、0.25%の政策金利引き上げが発表された。

そして、本日（6 月 16 日）の R B A（オーストラリア準備銀行）は、これもマーケットの事前予想通りに、政策金利据え置きを発表した。

いずれも、マーケット（金融市場、株式市場、外国為替市場）が、事前に想定していた通りなので、サプライズは無かった。

+++++

先週のコラムでも述べたのだが、日銀の 0.25%の政策金利引き上げでは、現在のインフレ状態を收拾できる水準ではない。

現在の日本のインフレ状態を收拾するには、まだまだ相当な利上げをする必要がある、と考えます。

換言すれば、今回、日銀は 0.25%の利上げを行ったのだが、時間が経過すれば、日本のインフレ懸念が収まらないことが明らかになり、日本の長期金利の上昇圧力にも変化がないことになるのだろう、と考えます。

+++++

その他の気になる事柄は、米国とイランの状態。

トランプ大統領は、昨日（6 月 15 日）、イランとの戦争終結に向けた合意は双方が署名済みである、と述べた。

事実であれば、大きな前進があった様子だ。

ただ、トランプ大統領の過去の言動を踏まえると、全てを鵜呑みにする訳にはいかない、と考えます。

昨日（6月15日）のトランプ大統領の発言だけでは、詳細が公表されておらず、不明な点が多い、と考えます。

また、イスラエルの行動は、米国と一致していない、と考えます。

米国とイランの状態が、前進したならば、それは良いことだ、と考えますが、それを理由に、安易にリスクテイクできる状況ではない、とも考えます。

+++++

そして、引き続き、トランプ大統領の発言が、コロコロと変わることに留意したい。

トランプ大統領にも、それなりに言い分があることも理解する。

米国政府としても、イランとの交渉で、譲れないところや発表できない部分もあるのだろう、と推察する。

しかしながら、マーケット（金融市場、株式市場、外国為替市場）に参加する立場から言う
と、そうそうコロコロと発言が変わるのでは、その発言を信用できないし、積極的には投資
行動に出ることができない、と考えます。

+++++

（2026年06月16日東京時間14：00記述）